

市立

1993年（平成5年）2月1日発行

# 市川自然博物館

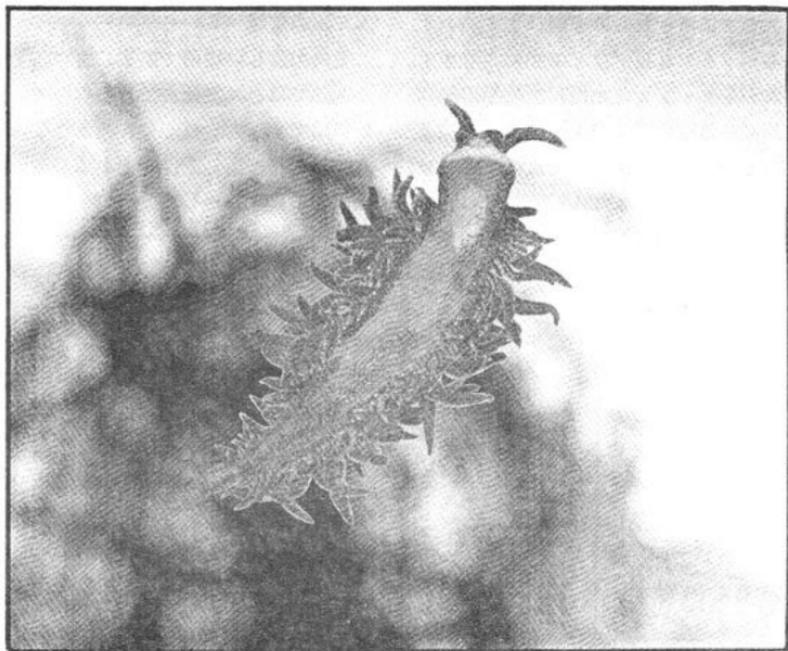
## 2・3月号

（通巻第24号）

## だより

今月号の特集

### 冬に楽しむ干潟の生物



▲ 水槽をほうみドリアマモウミウシ

# 特集 冬に楽しむ プラ水槽を使った

本やTVで世界中の自然が見られるようになった現在でも、身近なところに見ながら見過ごされている生き物が数多くいます。江戸川放水路にも、そんな見知らぬ生き物がくらしています。それは、ほんの小さな生き物です。ここでは、それらを観察するための、ちょっとした工夫を紹介しましょう。

## 水槽のセット

水槽には、割れないプラスチック水槽を用います。周辺機器には、エアポンプと、それに接続して使用する簡易式底面濾過装置を用います。濾過装置は、水槽の大きさにあったものを選びます。いずれもペットショップなどで手に入ります。それらをセットした水槽に水槽用の砂利や川砂を敷けば完了です。水は、生物と一っしょに江戸川放水路で汲んできます。人工海水でも構いません。水槽には、まわりに塩分が飛散しないようにビニールで被いをします。

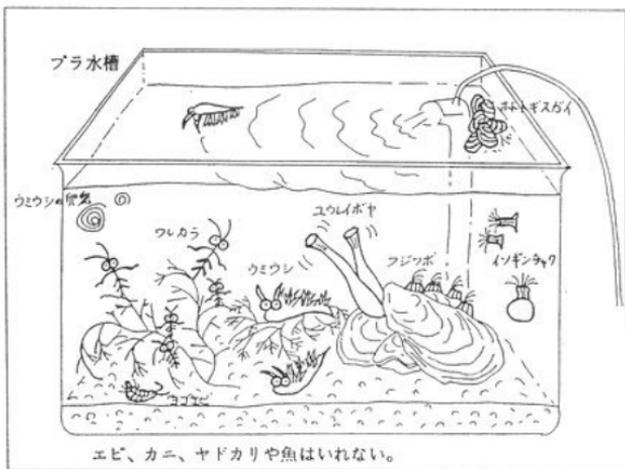
## 採集

狙って採集するのは容易ではありません。そこで、カキ殻や海藻の塊を採集します。たいてい、何かが潜んでいます。また、イソギンチャクなどは現場で見つけて掘ることもでき

ます。採集は2～3月の潮が昼間引いている日に行います。釣り道具店などで潮見表を入手して、引き潮の時刻を調べるといいでしょう。

## ふだんの管理

室内の涼しい場所で観察します。1～2週間でほとんど死んでしまうので、餌は不用です。もし長く生きようなら、水分の蒸発で塩分濃度が上がるので、汲み置きのお水を足して、水位を保ちます。



# 干潟の生物

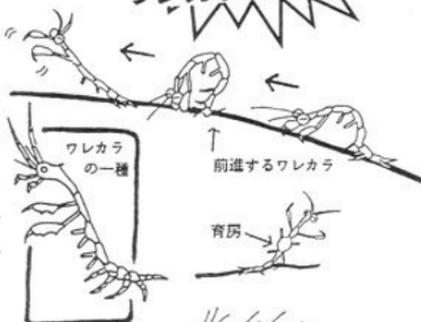
## かんたん飼育

江戸川放水路の  
ウミウシ  
イソギンチャク  
ワレカラなど

こんな生物が……

### ワレカラの一種 (甲殻類・端脚目)

エビやカニの親類で、海藻の塊のなかに海藻そっくりの姿で潜んでいます。注意して探してみてください。ワレカラは海藻の上を尺取り虫のように慎重に歩き、魚などの外敵の目をあざむきます。時々、子を保護する育房がふくらんだ雌が見られます。



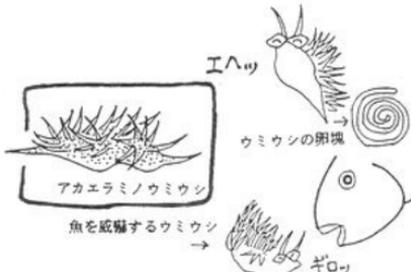
### ミドリアマモウミウシ (腹足類・裸鰓目)

海藻のハネモに潜む鮮やかな緑色のウミウシです。水槽では活発に這い回り、渦巻状の卵塊をあちこちに産みつけます。



### アカエラミノウミウシ (腹足類・裸鰓目)

美しいピンク色のウミウシです。小さなイソギンチャクなどを食べ、その毒の刺胞を背のひらひら(鰓)に仕込んで、魚などから身を守る武器にします。



### ユウレイボヤ (尾索類・ホヤ目)

食用にするマボヤと同じホヤ目です。夜間ぼんやり発光する透明な体を持ち、カキ殻からいつのまにか伸びて、長さ10cmにもなることがあります。



### タテジマイソギンチャク (花虫類・イギンチャク目)

カキ殻などについていたものが、いつのまにか水槽のあちこちで触手をひらひらさせるようになります。イソギンチャクは、結構歩くのです。水槽でもわりに長生きし、つまんで与えた魚肉片を触手を縮めて飲み込む姿は可愛いものです。





# 街かど自然探訪

おじゃまします!

## 河原・タコノアシとは？

河川敷は、サクラソウやタチスミレなど、ほかの環境では見られない植物が多く生育するところです。しかし、ほぼ完璧に護岸工事が施された江戸川では、一部を除き、かつての植物群落を見ることはできません。

タコノアシは、実のついた花序の枝ぶりが、海にすむタコを逆さに見た姿を連想させる植物です。湿地に多く生育し、江戸川でも上流から点々と姿を見ることが出来ます。しかし、1か所に生育する数は少なく、河原の江戸川沿いの湿地（行徳可動堰直上）でも、十株程しか見られません。護岸工事で姿を消したものの、上流から種子が流れてきて復活したのでしょう。



### やってみよう! みてみよう!



わたしはどこに  
行くときも  
ノートとペン  
はわすれません!

さらに虫めがねを持って行くと...



こんなものまで捕まよ。

さらに<sup>まがめがね</sup>双眼鏡を持って  
行くとき...



こんなものア

そしてへたでもいからみんなに見せて  
あげよう。



ここで  
こんなもの  
見たヨ



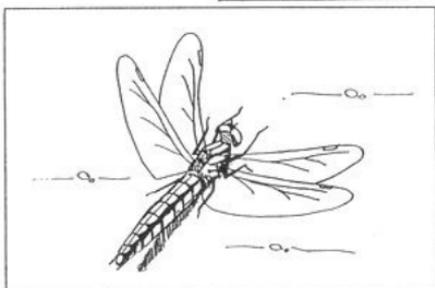
へえ!  
もう春が  
きたんだね!

その2へ  
つづく....

# 市川のこん虫 シオヤ トンボ



ヤンマ類の夏、アカネ類の秋というように、トンボというと夏や秋の印象があります。しかし、たとえば1992年の大町自然観察園の場合、はじめてトンボの成虫が確認されたのは4/15のシオヤトンボで、その後、4/23にアオモンイトトンボ、4/27にシオカラトンボが確認され、成虫越冬のホソミオツネトンボも4/20に



目撃されました。トンボの出現は4月からはじまっています。そしてシオヤトンボは、春のトンボの代表です。シオカラトンボに似た姿ですが、側面の模様や太く短い腹などが違います。水田や湿地に生息し、陽光が降り注ぐ春の田んぼの道ばたによくとまっています。しかし博物館が知る限りでは、最近の市内での確認は自然観察園だけです。他にも生息場所はあるでしょうが、水田の減少が、この春を告げる小さなトンボに大きな打撃になっているようです。

むかしの市川 ～ その19 ～

## ハゲ山

昭和10年頃のことです。真間小学校の東側の道を北に向かって少し行くと、台地の崖を切り崩して、赤土が露出した小山がありました。草木が生えていないので子供達は、ハゲ山とよんでいました。小規模ながら西部劇に出てくるような景観をバックに映画のロケーションなども行われました。凸凹のあるハゲ山の地形は、子供達にとって、兵隊ごっこ、チャンバラごっこなどの動的な遊びをするのに格好な場所でした。わざわざ遠くから遊びにくる集団もあったりして、なかなかの人気でした。

しかし、いつでも遊べるわけではなく、



よく馬力(ばち)とよぶ荷馬車がやってきて、切り崩した土を積み出していました。

この頃は、まだ、真間から菅野・須和田にかけて、池や湿地が点在し、ところによっては、ヨシ原となっているところもあり、このような湿地を埋め立てるために、ハゲ山の土が運ばれていたのです。そのうちハゲ山で遊ぶのは危険だからというので、学校の先生から禁止されて、大変残念に思ったものでした。

(博物館指導員 大野景徳記)

● 大町自然観察園 2～3月の見どころ ●

コブシの花 3月中旬～下旬  
 斜面林や雑木林  
 の中に点在し、  
 新緑に先立ち白  
 い花を開きます。



ニワトコの新芽 3月下旬  
 斜面沿いに生えていて、とても目立ち  
 ます。他の木々も次々に芽吹いてきて  
 観察園は一気に春らしくなります。



ウグイスのさえずり 3月下旬  
 はじめは上手になけませんが、しだいに「ホーホケキョ」というおなじみの声になってきます。昨年の観察園での初なきは、2月28日にきかれました。今年はいつでしょう？

ヒキガエルの卵 3月下旬  
 水ぎわに、ひも状の卵塊がいくつも産みつけられているのが見つかります。おたまじゃくしは4月頃みられます。



# 行徳野鳥観察舎

## だより



オオコノハズク

みみずく、といえはふつうはこの種類を指す。ちょうど両手にすっぽりサイズ、2頭身半のむっくりした実にかわいい鳥だ。老木のうろなどに巣を作り、人里にざらにいる種類だったそうだが、夜鳥なのでまず見られない。

野外で見かけることはほとんどないのに、なぜか毎年保護される種類のひとつ。年明け早々に来所した一羽は、左の足先が淡黄色の部分白化個体で、衝突したらしく左目の瞳孔が開いたままになっている。気が強く、最初は手でも出そうものならすぐくるって仰向けになって鋭い爪でつかみかかった。馴れたのか、攻撃は



文と絵・  
 蓮尾純子

やめたが、隙あらば逃げだそうと身構えばちばちと嘴を鳴らして威嚇する。生きたぬいぐるみのようなみみずく君は私のこひいき鳥、空に帰してやりたいなあ。

(行徳野鳥観察舎 0473-97-9046)

わたしの  
**観察ノート**  
 No. 6

☆☆☆ニホンアカガエルの早い産卵の理由は？☆☆☆  
 ニホンアカガエルは、田んぼに多く生息するカエルです。千葉県でも郊外の水田地帯では普通に見られますが、市内では田んぼとともに姿を消しつつあります。そのニホンアカガエルの大町自然観察園での産卵が、例年の2月中よりも早まって、2年連続して1月中に行われました。

◎大町自然観察園でのニホンアカガエル卵塊の初確認日

1990年(平成2年)	2月17日
1991年(平成3年)	2月11日
1992年(平成4年)	1月21日
1993年(平成5年)	1月26日

これは、どういうことなのでしょう？ 地球温暖化の影響？ その原因のひとつに降雨があげられるかもしれません。つまり、今年の産卵の場合、それは冷たい雨が降る晩のことでした。通例は、暖かい春雨が降る2月の晩というがおきまりです。しかし、自然観察園の産卵場に張った氷は、この1月の冷たい雨でも融けていました。表面の氷さえ融ければ、自然観察園の産卵場に流れ込む水は湧水で、1月も2月も水温に大差ありませんから、早めに卵を産んでも、その後のおたまじゃくしの成長には関係ないはず。つまり、

産卵場の氷が融けるような手ごろな雨が2年つづけて1月中に降ったための早い産卵というわけです。

まだまだデータ不足で、はっきりしたことは言えませんが、降雨と湧水と産卵の関係は、早春の楽しみなテーマになりそうです。



**\*自然観察会**

「3月の自然観察会」

- |         |                |                                    |
|---------|----------------|------------------------------------|
| 1. 日時   | 3月28日(日)       | <b>申込み方法</b>                       |
|         | 午前9時30分～11時30分 | 往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご記入      |
| 2. 場所   | 大野周辺           | のうえ、 <b>申込期間内</b> に、自然博物館までお送り下さい。 |
| 3. 内容   | たんぼの生物観察       |                                    |
| 4. 申込期間 | 3/15～3/20      |                                    |
| 5. 定員   | 20名            |                                    |

**\*柏井研究講座 4月開講！**

柏井雑木林での生物調査と学習(植物・昆虫・鳥類)などを行います。

毎月 第1・3土曜日の午後 [第1回は4月3日(土)]

参加を希望される方は、事前に電話で博物館までお問い合わせください。

\*-\*-\*-\*-\*-\*-\* **おしらせ** \*-\*-\*-\*-\*-\*-\*

**『博物館だより』定期講読者大募集！！**

博物館だよりを定期的に読んでみませんか！送料分の切手をお送りいただくだけで、年6回発行のこのたよりをあなたのお手元まで郵送いたします。

下記の要領で、博物館にお申込みください。4-5月号よりお届けします。

- 申込方法 住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、送料分の切手(72円切手1枚と62円切手5枚)を同封の上、自然博物館まで封書でお申込みください。

- 申込期間 3月1日～3月末日

\*2部以上の送付をご希望の方は、博物館までお問い合わせください。



次号は4月1日発行

市立市川自然博物館だより  
第5巻 1号 (通巻第24号)  
発行日/ 平成5年2月1日  
編集・発行/ 市立市川自然博物館  
〒272 千葉県市川市大町 284番地  
☎ 0473(39)0477